

健康づくりは朝の一步から



あがの 阿賀野市長(新潟県) **田中清善** たなかきよよし

阿賀野市といえば…

阿賀野市は、よく「阿賀町」や「安曇野市」と間違えられ、知名度の低さを痛感しています。知名度で言う、「ヤスタダヨーグルト」や、冬に湖面を埋め尽くすほど白鳥が飛来する「瓢湖」であれば聞いたことがある方もいらつしやるでしょうか。ヤスタダヨーグルトは、飲むヨーグルトの概念を覆すほどの濃厚さで、ふるさと納税でも人気ナンバーワンの商品となっています。

当地から輩出された偉人というと、早稲田大学の初代図書館長で図書館の発展に寄与した市島春城や、『大日本地名辞書』を編



五頭温泉郷(薬師の足湯)

さんした地理学者の吉田東伍も当地の出身ですし、「琵琶湖周航の歌」の原曲の作曲者である吉田千秋は、吉田東伍の次男です。

また、県内最古の温泉地「五頭温泉郷」も本市の自慢の一つです。出湯温泉、今板温泉、村杉温泉の三つからなり、ラジウム含有量が日本有数といわれる「体にいい温泉」なので、湯治場として連泊する人も多い温泉です。五頭山の麓、森の中のこぢんまりとした温泉地ではありますが、個性あふれる温泉宿のおもてなしの温かさが評判で、県が行う調査では、これまで何度も総合満足度第1位に輝いています。ご多分に漏れず、コロナ禍の影響で客足が減り厳しい状況ではありますが、落ち着いた際にはぜひ皆さんにお越しいただきたいです。

また、開通に向けて工事が進む阿賀野バイパス沿いには、令和4年のオープンを目指して本市初の道の駅の整備も進めています。地域一丸となつていい道の駅を育んでいきますので、こちらもぜひご注目いただきたいです。

「子育て環境日本一」のまち

平成24年4月の市長就任以降、継続して力を入れてきた政策は子育て支援の充実です。「子育て環境日本一」を目指して、各種サービスや助成を充実し、妊娠・出産・子育てと切れ目なくサポートする体制を整えてきました。分娩費用への4万円の助成



えいご塾「GolGolえいご」

や、紙おむつ購入費への年間6万円の助成、無料の英会話教室の開催など、支援を充実させています。

子どもは地域の宝。地域の未来を担う子どもたちのため、全ての人が安心して出産・子育てできるよう、これからも取り組んでいきます。

ほどほどのウォーキング

白鳥の渡来地として全国的にも有名な瓢湖は、一周約1・2km、隣の東新池をプラスすると約1・8kmあります。

周りには四季折々の花が咲き、春にはミズバショウやレンギョウ、見事な桜の花が



白鳥の渡来地として有名な瓢湖の前にて(筆者)

訪れる人の目を楽しませ、初夏にかけては、色鮮やかな紫色のアヤマや色とりどりのアジサイが咲き誇り、お盆の頃にはピンク色のハスの花が違った雰囲気を出してくれそうです。

また、冬になると白鳥と瓢湖、五頭山の雪景色が相まって何とも幻想的な風景に出会えます。

本市は、いつまでも健康で生き生きと暮らしていける、健康寿命を延ばす取り組みを進めているところであり、私も健康を維持するため、早朝や執務を終えた夕方など、せいたくなウォーキングをかれこれ10年以上続けております。

瓢湖周辺の花々、優雅に泳ぐ水鳥、野鳥の声に耳を傾けながらのウォーキングは、ストレス発散、リフレッシュし過ぎなのか、歩きながら思いついたことや事業へのアイデアなど、考えていたことを忘れることもあるくらいです(笑)。

最近では、市民の皆さんとのあいさつも楽しみの一つでありますので、休日になると歩く範囲を田

園地帯に拡大して10kmほど歩いたとき、股関節が痛くなりました。

これからも、体と相談しながら歩く距離をほどほどにして、本市の自然豊かな四季の移ろいに新たな発見を見いだしながら、ウォーキングを楽しみたいと思います。

高校球児と共に

私は、夏の高校野球を見るのが大好きです。大会歌「栄冠は君に輝く」がこだまする2年ぶりの夏の甲子園、くじけない心、石川代表・小松大谷の木下主将の選手宣誓には涙が出そうになりました。

過去を振り返りますと、1969年決勝、三沢高校と松山商業、延長18回を戦い抜いての再試合をはじめ、2006年決勝、早稲田実業と駒大苫小牧、延長15回引き分け再試合、最近では、金足農業と大阪桐蔭の決勝など、数多くの感動的なシーンに今でも思い出すと気持ち熱くなります。

球児たちの、決して諦めることのないひたむきな全力プレーに、私は心を動かされ、そのたびに勇気をもらっています。

また、私は市長になる前の県職員時代、六日町をはじめ、佐渡、五泉など県内各地に勤務していたことから、その土地柄や地域の特性と共に育った球児たちや本



ウォーキング途中の筆者

市出身の球児たちが気になり、夏の甲子園と同じくらいに、県大会を応援しています。

その応援ぶりは、県大会参加チーム一覧を取り寄せ選手をマーキングすることからはじまり、休日になると帽子をかぶり少々変装して、双眼鏡をのぞきながら選手の応援に行き、また、その日の夕方に流れるニュースは欠かさず見て、その結果をトーナメント表に表示。その際1人でぶつぶつと解説や論評するといった、ある意味監督になったつもりで1人楽しんでいきます。